

広報 Public Information OBIHIRO

おびひろ

令和3年
(2021年)
No.1170
November

発行: 帯広市
編集: 政策推進部広報秘書室広報広聴課
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
電話(0155)24-4111
FAX(0155)23-0151
<https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/>

掲載情報は10月13日時点のものです。新型コロナウイルス感染症の影響により、掲載内容や行事などの日程が変更になる場合があります。

新型コロナワクチン接種実施中 予約は、**帯広市新型コロナワクチンコールセンター**（ナビダイヤル 0570・015・586）へ。

また、新型コロナウイルス感染症について、正しく理解し思いやりある行動を。詳しくは14頁をご覧ください。



地域とともにある 学校づくり

～コミュニティ・スクール～

これからの時代をたくましく生きる子どもたちを育てるため、学校・家庭・地域が、目標を共有し協働する学校である「コミュニティ・スクール」について紹介します。

問い合わせ 学校地域連携課（市庁舎8階、☎65・4162）

夏休み学習支援の様子（平成30年撮影）

コミュニティ・スクールってなに？

コミュニティ・スクールは、学校・家庭・地域で構成する会議（学校運営協議会）を設置した学校のことで、会議では、学校の運営や課題のほか、地域の子供たちにどのように育ててほしいかという目標を共有し、目指す子ども像の実現に向けて、学校・家庭・地域が協力を重ね、協力しながら活動します。（図）

これまでも学校では、登下校の見守り活動や放課後子ども広場など、家庭や地域と協力をしてきましたが、学校の運営や支援に関わる協議に、家庭や地域の参画を制度的に保障しているところがコミュニティ・スクールの特徴です。

図 コミュニティ・スクールのイメージ

学校運営協議会

構成メンバー

- * 学校関係者
- * 保護者
- * 地域の皆さん
- * 学校支援ボランティア など



目指す子ども像の共有と活動の振り返り

地域学校協働活動

活動例

- * 放課後子ども広場
- * 登下校の見守り
- * ミシンのサポート
- * 地域一体のお祭り
- * 本の読み聞かせ
- * 餅つき大会
- * スケートリンク造成協力 など



目指す子ども像の実現に向けた協働活動

なぜ、コミュニティ・スクールにする必要があるの？

これからの予測困難な社会を生きる力を育てるためには、学校だけでなく、地域全体で子どもの成長を支える仕組みが必要と考えられています。

子どもの学びの場を学校だけに限定せず、家庭はもとより地域全体を学びの場として捉え、学校・家庭・地域が目標を共有して、ともに子どもたちを育てていくために「コミュニティ・スクール」の導入を推進しています。

次頁では、コミュニティ・スクールを開始した学校関係者へのインタビューを紹介しています。

コミュニティ・スクール経験者に聞きました

コミュニティ・スクールは、

まちづくりの第一歩

市では、地域の人の関わりを通して「ふるさと」に対する誇りと愛着を育み、よりよい地域づくりを考える子どもを育てる「おびひろ市民学」に取り組んでいます。

この学びを通して、子どもは「自分は変わることが出来る」と「自分が動くことで世の中は変わる」ことに気付き、自己有用感を高めることになり、学校・家庭・地域が協働するコミュニティ・スクールは必然と言えるのです。

「人口が減少する中、どう地域運営をしていくか」は、多くのまちが抱えている課題です。その解決の糸口は、子どもも大人も共に学び、共に地域を創ろうとすることにあります。そこから、郷土愛やふるさと教育からさらに進んだ、シビックプライドによるまちづくりが始まります。まさしく、コミュニティ・スクールは、その一歩なのです。



帯広第五中学校
校長 野上 泰宏



緑丘小学校保護者会会長を歴任していたこともあり、学校現場の大変さと、地域との協力関係の大切さを実感していました。

また「放課後子ども広場」を通じて、地域の人々が学校に協力を惜しまないことも知っており、そのような学校と地域とを結びつける、学校支援地域コーディネーターの役割を長年担ってきました。

これらの経験からコミュニティ・スクールの導入することに少しの疑問も抵抗も感じませんでした。むしろ、学校は地域と共にあるのですから、その呼称は当然とも言えます。

学校が困っているときは地域が学校を助け、子どもたちが安心して通えるように学校を支える、その一方で私たちもまた学校を地域の拠り所とする。それがコミュニティ・スクールのあるべき真の姿だと考えています。



緑丘小学校コミュニティ・スクール協議会
会長 保前 明美

地域で学校を支え、 地域で子どもを育てる



各学校の コミュニティ・スクール 導入時期

市では、令和元年度に市内8つの小中学校でコミュニティ・スクールを導入し、下記のとおり順次導入校を拡大しています。

導入年度	学校名
令和元年度	緑丘小、啓北小、つつじが丘小、大空南校区（大空小・大空中）、第七中校区（大正小・愛国小・第七中）
令和2年度	清川中校区（清川小・清川中）、八千代中校区（広野小・八千代中）
令和3年度	帯広小、西小、明星小、北栄小、東小、啓西小、豊成小、若葉小、花園小、開西小、第一中、第二中、第五中、翔陽中、川西中校区（川西小・川西中）、南商業高校
令和4年度	柏小、光南小、稲田小、栄小、広陽小、明和小、森の里小、第四中、第八中、南町中、西陵中、緑園中

市ホームページには、各校で実施した取り組みなどを紹介した「帯広市コミュニティ・スクール通信」のバックナンバーを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。



市ホームページID.1004732

もっくんひろば 《幼児～小学2年生向け》



改修後

従来のおままごと遊びや木製遊具はそのままに、より多様な遊びができるよう、知育遊具を活用した壁遊びスペースやからだ遊び遊具を設置しました。

児童会館
金田 裕子さん



児童会館の屋内遊び場が 新しくなりました

10月1日リニューアルオープン

問い合わせ 児童会館（緑ヶ丘2、☎24・2434）

“子どもたちの体力づくりと豊かな創造力を育むこと”をコンセプトに、児童会館の屋内遊び場を21年ぶりにリニューアルしました。

子どもの成長や発達にあわせた多様な遊びの空間に生まれ変わりましたので、ぜひご利用ください。

リニューアルのポイント

1 従来コーナーに新しい遊具を追加

幼児から小学校低学年対象の「もっくんひろば」「木の遊園地」にも新たな遊具を追加し、さらに遊びの幅が広がりました。

- さまざまな形のマグネットブロックをくっつけて遊べるウォールキャンパス
- 歯車を組み合わせ、回して遊べるギアウォール
- 乗ったり積み上げたり、いろいろ遊べるクッションブロック など

2 小学生を対象としたコーナーを新設

体を使った遊びや創造遊びを楽しむ遊具を取りそろえ、靴を脱いで遊べるコーナーを新設しました。

- 木製とポリウレタン樹脂のホールドやロープを使って壁を登る、高さ約2.8m、幅約7.2mのボルダリングウォール
- 自由に組み立てて遊べる、軽くて柔らかい大型ブロック
- くぐったり渡ったり、アスレチックのように遊べるクッションブロック
- 弾む運動ができるエアマット

新コーナー 《小学生向け》



改修後

新たに設置した小学生向けの新コーナーの名称を公募しました。決定次第、市ホームページなどで紹介します。



新型コロナウイルス感染症対策のため、各コーナーに定員を設けています。また、入退館時の手指消毒など、感染症の拡大防止にご協力をお願いします。